

市町村合併に関する各種団体との意見交換会の開催結果について

1 出席状況

期 日	時 間	会 場	出席団体数	出席者数
11月 6日(水)	15:30-17:30	市役所東別館 9階 特別中会議室	18	19
11月 7日(木)	14:00-16:00		23	23
11月 8日(金)	10:00-12:00		21	21
合 計			62	63

意見交換会開催案内送付団体数...89団体

2 質疑・応答等の状況

(1) 企画部会関係	-----	1 頁
(2) 総務部会関係	-----	1 頁
(3) 市民部会関係	-----	3 頁
(4) 環境部会関係	-----	3 頁
(5) 健康福祉部会関係	-----	3 頁
(6) 経済部会関係	-----	4 頁
(7) 建設部会関係	-----	5 頁
(8) 消防部会関係	-----	5 頁
(9) 教育部会関係	-----	6 頁
(10) 交通部会関係	-----	6 頁
(11) 水道部会関係	-----	6 頁
(12) 病院部会関係	-----	7 頁
(13) 議会事務局部会関係	-----	7 頁
(14) その他	-----	7 頁

(1) 企画部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 吉田、郡山、松元町は、それぞれバスが走っており、またコミュニティバスも走っている。合併後、どういう条件でやるかは合併協議会で協議されると思うが、その場には呼んでいただき、意見を聞いていただきたい。

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

(2) 総務部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 基本的には、合併すべきだと思う。いろいろな問題があると思うが、非常に気になっているのは、将来の財政的問題である。職員の給与を含めて、軌道事業は市内だけなので残した形でやると思うが、バス事業をどうするのか。今でも非常に厳しくて、一般会計が面倒を見なければならないという状況があるが、それをどうするのか。
- 職員が一緒になったときの給与水準について、平均は出ているが年齢の差はあるし、本市の場合、企業会計を含めて特殊な手当等があるといわれているが、それをどうするか。財政的な面でいろいろな調整をしていただかないといけないと思う。
- (2) 限られた財源の中でいかに効率的なサービスを行うかという点では、行政も企業も共通しており、民間では既に厳しいイストラに取り組んでいる。自治体でもこれから人件費の削減が大きな課題であり、合併後の適正な職員数について細かい神経を使ってほしい。合併後すぐは無理でも、将来計画の中で検討する必要があると思う。
- (3) 時代の中での広域化であり、絶対に必要なことだと思う。基本的に、遅れている地域に対する建設計画など、かなり考えていかないと、そのときの投資が大きくて財政を圧迫するということがあれば意味がない。格差があるので、それに対しては思いやりも必要であるが、特例措置で財政的な余裕が出てきたときに、ハコモノ等余計なものが出てきて、負担が増大することは良くない。
- (4) 面積が倍になることでかかるコストが試算されているが、本当に健全な財政運営ができるか心配である。
- (5) 特例措置で地方交付税におんぶに抱っこだと思うが、合併により自主財源の拡大をイメージさせるものが、この資料の中にはない。新幹線ができれば物流は福岡に行ったり、不況になれば本市の支店は閉鎖され、福岡や熊本に統合され、人口が流出することも考えられる。少子高齢化で財源の維持ができるのか心配である。その指標も示しながら、市民に理解できる合併ができればと思う。
- (6) 全体としてはよい方向で合併に向かっていると思うが、一番の問題は財政である。各市町とも黒字なのであれば、なぜ合併する必要があるのか、となる。いろいろな面からさらに財政問題を検討してほしい。
- (7) 合併については賛成であるが、本市の下水道は完備されているかということを考えると、必ずしもそうではない。やることをやらないので、こういう経常収支比率になるのではないか。合併となると、他町は下水道は整備されていないので、これをやるとなると、かなりの社会資本がかかる。こういう点も考え、合併の事業計画を策定していただきたい。
- (8) 合併は結婚と一緒に、相手がどういう財産、借金を持ってくるかわからない。本市は一般企業と同様、バランスシートを作成しているが、他町、特別会計も含めて統一したものを作成して情報として示していただきたい。

- (9) 市長の任期は16年12月。合併は17年3月が期限とあるが、合併は現市長の手でやってほしい。市長選挙の後に合併となると、他町の住民は首長を選ぶチャンスが4年間失われることになる。タイミングがいいので、16年の9・10月を目途に、スピードを上げて県内で最初の合併となるよう努力してほしい。

意見交換会の質疑応答等の要旨

- (Q 1) スケールメリットの話があったが、将来、職員は削減されると思うが、定年退職を待ちながら採用は控えるということになるのではないか。
- (A 1) 編入される町の職員の身分は、新市に引き継がれる。合併により、一般職員が退職等になることはないが、合併をしてもしなくても、最少の費用で最大の効果をあげるという自治法精神は生かしていかなければならない。確定的なことは言えないが、効率的な行財政運営という観点から、職員の適正規模を考えていかなければならない。
- (Q 2) 合併したときに、今の役場の職員配置はどうなるのか、合併する町の住民の方々は心配なのではないか。今までどおりだと、合併する意味はないと思うが、どう考えているのか。
- (A 2) 編入される旧町の役場は、地域の核という役割がある。合併にあたって、どういう形になるかはまだわからないが、旧町役場を活用して、これまで役場の窓口で行ってきた住民サービスを低下させることがないように努めていきたいと考えている。また、合併特例法により一般職の職員の身分は新市に引き継がれるが、その配置については、その後の行政経営の面から考えていくべきである。
- (Q 3) 合併により人手もかかると思うが、財政面で経費節減についてどう考えているか。
- (A 3) 国に言わせれば、合併は究極の行革であるという。行財政基盤を強化する一方、効率的な行財政運営というのは、合併をしなくても常々地方自治法精神にのっとって考えなくてはならないことである。合併をしても究極の行革という観点から、できるだけ効率的な自治体、組織を考えていかなければならないものである。
- (Q 4) 資料12頁の経常収支比率を見ると、本市よりいいのは松元町だけであり、反対に桜島町は限界に近いが、市の予算規模が圧倒的に大きいので、合計するとわずかに悪化する程度になっていると思う。合併後、経常収支比率が78.8から77.7へわずかではあるが好転する理由は何か。
- (A 4) 資料29頁に示しているように、合併によるスケールメリットによって人件費や物件費の効率化が図られる。ただし、合併しても漫然と行財政運営を続けていくだけでは経常収支比率は改善しない。効率化の努力を継続することによって財政の健全性が維持されることになる。
- (Q 5) 先ほど合併の背景についての話があったが、その中には、国の財政状況もあろうと思う。実際に15年後にはどのように財政規模は変化していくと考えているのか。
- (A 5) 市町村建設計画の中で合併後10年くらいの財政計画を策定することになる。この建設計画の内容により、財政計画を立てることになる。建設計画がまだ策定されていない現時点では、15年後の財政規模の見通しはできない。

意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 手当等の問題もある。まちが大きくなり、人口が増えると職員も増員する方向になると思うが、今の段階から行革を考えて、行政規模の縮小、行政サービスの充実を考えてほしい。
- (2) 財政支援措置の補助金などの用途については、補助期限が過ぎて財政負担にならないよう考えてほしい。安易な公共施設の建設等は第3セクター方式に見るように、後で苦勞することになると思う。

(3) 市民部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 合併により、今まで以上に本市中心部に人が集まることが想定される。本市は活火山桜島もあり、デパートや映画館など不特定多数の人が集まる施設、特に昭和56年以前に建築された建物の積極的な調査を含め、地震対策に取り組んでほしい。

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

(4) 環境部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) ごみ処理やし尿処理等の問題がどうなるのか、結論はまだ出ていないようだが、いずれかの段階で明らかになったら、市民に情報を開示すべき。
- (2) 住民の健康面を考えると、経済のことより環境問題が大事である。し尿の海洋投棄をしていると聞き驚いているが、合併によりこれが是正されるとなると大賛成である。また地産地消の推進も、健康面から大事である。福祉も含めて、やさしいまちづくりを期待する。

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 環境と福祉に重点をおいた合併を進めていただきたい。特に、ごみ問題、し尿処理、水道、産業廃棄物問題など、環境問題を重点的に考え、水と緑の美しい鹿児島市を実現していただきたい。

(5) 健康福祉部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 福祉の関係では、サービスは高い方に合わせる努力をしていただきたい。
- (2) 敬老パスは、本市だけの制度である。合併によりこれをどのように拡げるのか。現在でも、民営バスは非常な負担を強いられている。制度の拡張で、さらに負担が増えたらどうしようかと思っている。
- (3) 現在、高齢化が進む中、合併により広域になるために、敬老パスが各町にまでとなると、経営的にどうなるのか心配である。現在の医療費についても本市と各町とはだいぶ差があるので、調整方法について検討いただき、いい案を作っていただきたい。合併には、賛成である。
- (4) 本市の周辺町ではベッドタウン化が進んでおり、始良町、吉田町、郡山町、松元町、知覧町、川辺町などから本市へ通勤している世帯からは、市内の保育園に子供を預けたいという相談がよくあるが、関係町と市との間で取り決めがないと、保育料などの関係でトラブルになる。今回の合併によって、相談の多い地区が一緒になれば、勤労世帯にとっては大変助かると思う。

また、保育所職員の研修を行う際に、県レベルの研修では本市と吉田町、桜島町が一緒になるが、本市が主催する場合は両町は参加できず、やりにくい面があったが、合併すれば研修の実施体制もスムーズになると思う。

- (5) 知人に障害児を持つ家庭があり、地方を転々として最近市内に帰って来られたが、障害児のいる家庭は市内でないと暮らしていけないと言っておられた。素晴らしい福祉サービスを提供しているわけだから、いいものは周辺町にも提供すべきだと思う。
- (6) 障害者の施策については、この資料には細かく載っていない。地域が広がることで、細かいサービスがどうなるか心配である。弱い人の立場で考えていただき、合併して今よりももっと良くなるよう計画を立てていただきたい。
- (7) 障害者が外出に困らないように、交通等についても身障者がどこにでも行けるようにしてほしい。
- (8) 手話通訳者の派遣をしているのは、本市だけである。市域が広がるのはいいが、今の予算では、今後対応することが難しくなると思う。将来に向けて、このようなことも考えてほしい。
- (9) 本市には友愛バス制度があり、バスでどこにでも行ける。無認可作業所に他町からやって来る人は、交通費は手出しである。合併して、これらの方々もバスがもらえればありがたいと思う。障害者が安心して暮らせるまちづくりを願っている。
- (10) 昨年、本市は4つの保健センターができ、健康づくり施策を進めているが、合併して広域になっても健康づくりは私たちの生活になくしてはならないもの。合併により、健康づくりのために各町が取り組んでいる施策の交流ができると思う。合併について、反対という考えは持っていない。
- (11) 住民の健康面を考えると、経済のことより環境問題が大事である。し尿の海洋投棄をしていると聞き驚いているが、合併によりこれが是正されるとなると大賛成である。また地産地消の推進も、健康面から大事である。福祉も含めて、やさしいまちづくりを期待する。

意見交換会の質疑応答等の要旨

- (Q1) 敬老パスについては市の制度を基本に考えるということだが、友愛パスはどうか。
- (A1) 敬老パスについては、合併とは別に制度のあり方を検討している。発足後かなりの年数を経ており、今の制度のままで続けていけるのか、続けるためにはどのような制度にすればいいのか、敬老パスを続けていくことを前提にした検討を行っており、友愛パスも同様である。

意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 高齢化、少子化の問題をはじめ、福祉行政を「福祉にやさしい視点」で進めていただきたい。
- (2) 福祉に対する市民サービスは、合併後も低下させず、もっときめ細かなサービスの向上も考えてほしい。障害者が、自由に街に出られるサービスは、合併後はむしろ発展すべきだと思う。

(6) 経済部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 合併にあたり、地場産業の育成という視点も盛り込んでいただきたい。
- (2) 鹿児島島の観光も桜島・西郷さんに頼るものではない。自然を生かした観光を考えるべきであり、そういう意味で今回の合併には賛成である。
- (3) 本市の農業は農地が少なくなっている状況にある。郡山町等の農地を生かして市民に農業の経験をしてもらいたいと思う。今回の合併は、必要である。
- (4) 木材価格の低迷により林業への関心が薄れ、林業家の後継者が県外から帰ってくると、自分の山の境界がわからなくて問い合わせる人が多い。他町の場合は国土調査を行っているので境界杭でわかるが、本市の場合は調査をしていないので法務局の登記だけではわからない。対応策について行政でも考えてほしい。
農林業については、松元町や郡山町では本市よりも突っ込んだ施策をいろいろ考えているので、そのようなことも考慮に入れて調整してほしい。
- (5) 編入する5町には、農林水産業の基盤がある。合併すると各町の事業は見直すことになると思うが、現在の事業の中身を見て、住民の方々が見ることがないようにしてほしい。

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 各町にも商店街があるので、市内の商店街団体から訪問して、地域商店街の繁栄に寄与できるよう取り組みたいと考えており、市の経済部局の協力をお願いする。
- (2) 観光面からみると、海岸線のある2町（桜島町、喜入町）と一体となった取り組みが必要。特に道路の拡張整備（平川方面から指宿への道路）が大事である。海を生かした観光地づくりによって、世界に開かれたまちづくりを進めてほしい。
また、周辺町では近郊農業の振興が大事であり、このことによって人口の流動化が促され、中心部への人口集中が改善される。

(7) 建設部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 調整区域について、よほど考えないと地域の均衡ある発展はない。穀倉地帯であるなどの地域の生かし方を考えないと、均衡ある発展は遂げられない。一極集中化が考えられるが、均衡に取り扱わなければならない。歪が出てからは遅い。
- (2) 線引き問題については、協議が大変だろうが、時間をかけて合意を得る努力をしてほしい。
- (3) 施設の増設等を行う際に問題となるのが、都市計画である。これにより建物ができるまで、かなりの時間を要している。合併を機に、このあたりを簡素化してほしいと考えている。
- (4) 人口が増えることによる交通渋滞等にかかる交通網の整備では、市民の納得を得て湾岸道路の整備に、早急に重点的に取り組んでほしい。
- (5) 鹿児島市・吉田町は鹿児島土木事務所、郡山・松元町は伊集院土木事務所、喜入町は指宿土木事務所と、現在は管轄が分かれているが、合併によりこの管轄の見直しがなされることを期待している。

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 市街化調整区域の線引きの見直しも早急にしてほしい。

(8) 消防部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 消防の人員や統括体制等についても消防局等を中心に検討していただきたい。

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

(9) 教育部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 合併により懸念されることは、学校の合併、吸収、校区の変更、施設設備の不ぞろいな点である。特に、給食制度については、今後考えていかななくてはならない。高校の学区制も、合併に伴い考えなければならない問題である。
- (2) あいご会については、青少年の健全育成を目的とした本市独自の団体であり、5町の住民にも是非加入を呼びかけていきたいと考えている。もともとは市民憲章に基づいて子供の有無に関わらず1戸あたり30円の負担金と市からの助成で運営しているが、厳しい経済情勢下であり、5町の住民の理解が得られるか、また市の助成の増額が期待できるか、関係方面にも働きかけをしていきたい。

意見交換会の質疑応答等の要旨

- (Q1) 合併が行われると、各市町の小学校の統合が考えられるが、それについて現時点では、どう考えているのか。
- (A1) 資料のP8にもあるが、今回の合併に起因して本市のサービスが低下をすることは、基本的にはないと考えている。これが、学校統合に直接結びつくかというのは難しいが、基本的にはそう考えているので、合併に起因して学校が統合されることは基本的にはないと考えている。

意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

(10) 交通部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 合併そのものは大勢がそうなっているので、とやかくいう段階ではないが、交通事業についてみると重要項目にも挙げられており、電車はともかく、バスは本市と桜島町の公営交通において基準賃率に相当の差があり、その調整をどうするかという問題がある。交通局とも話をしていると思うが、調整は微妙であり、十分な検討が必要である。
- (2) 吉田、郡山、松元町は、それぞれバスが走っており、またコミュニティバスも走っている。合併後、どういう条件でやるかは合併協議会で協議されると思うが、その場には呼んでいただき、意見を聞いていただきたい。

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

(11) 水道部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 各市町の水道料金については、一般家庭では殆ど差異がないと思うが、企業などの大口利用者にとっては、市の料金はやはり高いと思う。合併して一遍に市の料金に合わせるとするのは大変なので、徐々に調整するしかないのではないか。

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

(12) 病院部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

該当なし

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

(13) 議会議務局部会関係

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 合併により編入される町の議員が失職するとなると、合併について反対されると思うが、他町の議員をすべて受け入れるとなると、本市は49人、他町は82人となる。こうなると鹿児島市の行政の決定を行う議会のバランスが大きく崩れる。また、本市は合併の前年に議員選挙があり、他町の議員は3年間在任できることになる。バランスが崩れた状態が3年続くのは問題である。こういう問題は、慎重に議論してほしい。

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

(14) その他

意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 基本的に合併の議論は、行政主体。民意の成熟がどこまでなされているかが問題である。現実には合併の流れは進んでおり、市民を含め多くの方が賛同している今、都市のリストラができる合併でなければならぬと考えている。これができるかが、ポイントである。この時に、何を目安にするかといえば、まずは暮らしやすさである。これを官が担うのではなく官民バランスをとりながらリストラすることが必要である。住民監視の下に行政のスリム化をしなければならない。2つ目は、自治体の壁、住民エゴを取り払ったリストラによるまちづくりができるかという点である。できるだけ低い税負担、高い水準のサービス提供。これには、行政の決断力、住民の協力が必要である。鹿児島の住みやすさは、全国的にも高いレベルである。合併により、Iターン、Uターンによる新しいまちづくりが進むことを期待している。

- (2) 本市が中心になって合併を進めることは大事なことであり、他地区のモデルになるような、県都にふさわしいまちづくりに取り組んでほしい。合併によって5町それぞれの特色が消えて過疎化することのないよう配慮する必要があると思う。また、市域が広くなると住民としての意識が希薄になりがちであり、どのようにして住民間のネットワークを構築するかが重要な課題になると考える。
- 合併にあたっては、単に複数の自治体が1つになるということではなく、これを機に新しいものを創造して、元気の出るまちづくりに取り組んでほしい。例えば福祉分野で新しい産業・雇用を生み出すとか、医療・福祉の連携による新しいシステムを構築するとか、合併を機に総合的な施策を打ち出してもらいたい。
- (3) 鹿児島市は住宅地と都市空間だけで潤いに乏しいが、合併すると周辺に緑の空間が広がり、市民にとっては生活空間に新たな財産を得ることになる。また、周辺町にとっても市という大きなマーケットを得るメリットがあると思う。周辺町の自然空間を本市の財産としてどのように活用していくか、自然とのふれあいが今後のまちづくりの大きなテーマになると考える。ボランティアによる棚田の保全や水源涵養、消費主体の都市から一次産業の生産現場との接点をもつ都市への転換など、スローライフや地産地消が注目される中で、これまで描けなかった都市像が描けるのではないかと思う。
- また、そのような都市像を実現するためには、周辺町との一体化を図ることが肝要であり、道路や交通機関の整備が急務である。バイパス整備は進んでいるが、まだ限られた路線に集中している。交通局の営業エリアを広げることも、インフラ整備の視点から検討すべき。
- 合併を契機として、アジアをはじめ海外においても市の存在感を増すような、将来のまちづくりの姿を描いてほしい。
- (4) 合併にあたって、あらかじめ合併後10年経ったら住民投票を行い、もう一遍合併を見直すというような取り決めができれば、行政も市民も緊張感をもってまちづくりに取り組むことができるのではないかと。そういうフォローアップは必要だと思う。
- (5) 基本的には、合併は結構なことだと思うが、その過程において問題があると思う。議会関係や職員の問題。鹿児島市は福祉その他ある程度は充実してきているが、その格差をどうするのか。交通体系においても、市営バスを延ばすのか。こういった問題があると思う。そういうことをしっかりやってもらえば、都市化の推進という意味では、合併はよろしいのではないかと。
- (6) 個人的にはもっとたくさんの町村との合併があつてよいと、前回の意見交換会でも発言したが、地域的なものを考えると、これが限界ではないか。内容を見てみても、意外とバランスがとれており、格好の合併であると思う。
- (7) 合併問題については、最初から賛成である。1市5町で協議会も設置され、様々な角度から検討が進められている様子が報道され、順調に進んでいることを喜んでいる。今後、困難な問題が浮上すると思うが、本市を中心に、それぞれの立場でがんばってほしい。
- (8) 地方分権の理念である自主・自立のまちづくりを進めるためには、財政的な自立が基本になると思うが、その観点からすると、今回の合併は本市にとってあまりメリットが大きいと思われない。ただし、県内96市町村のうち経常収支比率が80%を超える自治体が80以上ある現状では、市町村合併は大きな流れであり、県都として取り組んでいく必要があると考える。
- (9) 基本的には、合併に賛成である。各論を語るときりがない。ここまでくると、なるべく総論的に、グローバルな考えで進めていかないと永遠に話し合いが続くことになる。
- (10) 基本的には人がまちをつくる、そのつくる中では多様性が必要であり、また機会均等にやっていかなければならない。いろんな人が集まることにより、よりよいリーダーを選ぶチャンスにつながる。
- (11) 合併に賛成しないという場合に理解しておかなければならないのは、意見の強い人がいると、日本人の国民性から、特に鹿児島人は右にならえという思考になる。強い人が言うなら、そうしましょうという意見ではないのかということも分析してみなければならない。
- (12) 今の時代、合併しない場合、かたくなに合併しなくていいと言い、そのままの場合、将来、必ず競争社会が訪れ、潰しあいになるということを感じておかなければならない。国の願いは、地域に自立できる道を探してほしいということである。今は知恵や力を合わせてやるしかない。そうすると、合併しかないのである。やがて、地域に力がつけば、今度は分割の道も見えてくるのである。
- (13) 合併は大きな話で、自分には関係ないと思っていたが、このような場で勉強させていただいて、生活圏の広域化、地方分権の進展、少子高齢化の進行など、専門的な必要性を聞くと、合併は必要であると感じた。

- (14) 国の選挙となると、谷山は鹿児島市ではなく、他地区と同じ選挙区に割り当てられている。この点を見直す意味でも、今回の合併は必要なものである。
- (15) 会員からは、特に合併に対する異論は出ていない。設置される合併協議会で十分検討していただき、5町の意見もくみながら、大きく立派な鹿児島市にしてほしい。
- (16) 中核市になり役所のサービスが悪くなった面も見受けられるが、合併により住民サービスが低下しないか心配である。
- (17) 会合等の規模が今以上に大きくなることが考えられ、それに対する対応の大変さが懸念される。
- (18) 面としてのまちづくりを進めていく場合、例えば県道と市道とでは行政のあり方が異なり、バリアフリーへの対応をとっても、県道の場合は要望してもなかなかうまくいかない。道路行政や交通政策など県と市で重複する分野について、例えば合併を機に政令市を目指すとか、市で一元化して対応できるような方法がないものかと思う。5町にとっても、市と合併したためにうまくいかなかったということのないようにすべきである。
- (19) 1市5町の枠組みで人口が60万人とのことだが、どうせなら70万人で政令指定都市を目指すべきである。今回の合併は、1つのステップと整理すべきである。
- (20) 合併には賛成であるが、合併するからには100万人都市を目指してほしい。そうでなければ、福岡等に勝てない。もう少し大きな合併を望む。
- (21) 市民意識調査の結果によれば、合併の必要があるという回答も、必要はないという回答もともに30%台であり、市民は他町との合併にあまり肯定的でなく、市単独でやっていけると考えているように思う。市民は合併によって行政サービスが低下することを懸念しており、一方他町は合併のメリットを期待しているのではないか。そういう意味では、市のこれからの対応が大事になってくると考える。
- (22) 市民意識調査の結果によれば、合併は必要ないという回答が30%もあり、各種団体の調査でも15%ある。なぜ必要ないという回答が出たのかを考えると、資料5頁のような懸念があるからだと思う。大きい市が周辺町を受け入れるわけだから、福祉とか衛生などの分野で当然ギャップが出てくると思うが、合併にあたっては、福祉などのサービスの後退はあってはならないということを前提に進めないといけない。
- (23) 合併の議論を進めるには、住民の意思反映が大事である。平成17年3月までに合併すれば恩典があるというが、何かお金によって意図的に議論が進められていることに問題を感じている。それぞれの住民がまちづくりに参加できる環境づくりが、大切である。また、アンケートは全市民に行ったものではないが、学生など次代を担う若者の視点も大事である。議論を広げる工夫をしていただきたい。
- (24) 他の事例をみると、合併協議会を非公開としているところが多い。今回の合併にあたっては、合併協議会は公開とし、県内のモデルになってほしい。
- (25) 今回の合併のメリット・デメリットについて、もう少し情報の提示・開示をしていただきたい。
- (26) 現在、全国的に論議されている市町村合併は、基本は国・地方に累積した巨額の借金をどうするかというのが原点だと思うが、住民が我がまちのあり方を考えるという意味では絶好のチャンスだと思う。そのためにも、合併のメリットだけでなくデメリットも提示すべきであり、あくまでも合併ありきではなく、まちづくりを考える契機として、こういう意見交換会や市民説明会などを通じた情報公開を今後も継続してやってほしい。
- (27) 市町村合併については大きな流れとして前向きに考えていくべきだと思うが、今の段階ではまだ住民への情報提供が十分とは言えないので、今後最大限の配慮をお願いしたい。
合併によって、戦後50年の地方自治の歪みを正し、新時代に対応した効率的でパワーのある自治体を生み出すという視点、また、通勤・通学などの結びつきが強い周辺町からの合併の希望にこたえるという視点から、50万都市としての自覚と責任をもって取り組むべきと考える。
- (28) 住民アンケートの結果をみると、喜入町のように反対が多々あるところの住民の声は無視できない。谷山との合併の時には、鹿児島市が南に延びる前提があり、谷山もそれなりのメリットがあるということで、納得したと思っている。合併して、ただ鹿児島市になるということであれば、問題がある。それぞれの町の方々のよりどころ、生き甲斐のある特色ある地域づくりを考えることが必要である。住民本位の合併であってほしい。

- (29) 合併は、鹿児島市民にはそう大きな影響はないが、合併する相手にとっては、衝撃的なことだと思う。合併相手の新市での位置づけ等をはっきりさせて、相手の立場にたって気を使って進めてほしい。
- (30) 地域の均衡ある発展というものは、本市の市街地と同じような発展ということではなく、地域の個性ある発展を中心にやっていくことが必要である。
- (31) 1市5町の中に喜入町が入っているのは、谷山地域にとっては非常にいいことだと思う。昭和42年に谷山市は鹿児島市と対等合併したが、谷山地域にとっては少しは苦い思い出もあるということだけ申しあげておきたい。
- (32) これまでは、町役場が地域の大きな経済的支えだったが、これからは地域住民やその代表である議員を中心に、自助努力による地域コミュニティづくり、それによる地域の発展を考えなくてはならない。
- (33) 今回の合併によって面積が倍になれば、それぞれの地域間の連携をどのように図るのか、行政の情報化はもとより、住民サービス面での情報化が重要になってくる。
- (34) 詳しい話を聞いて構想はわかったが、P29に新市の将来像(素案)やまちづくりの視点とあるが、何のために合併するのか、合併するならどういう夢があるかを市民にわかるように打ち出してほしい。
- (35) 本市の人口はそれほど減らないということだが、高齢人口は増えるが、若者が増えるものではない。新しい市のまちづくりの重点施策として、少子化に対する取組を研究してほしい。
- (36) 市政を総合的にみると、保健・衛生サービスや議員の給料など全て高いレベルにあるので、合併すれば、他町もレベルアップする必要がある。合併後に住民からサービス低下の不満が出ないようにしてほしい。
- (37) 不況は深刻である。鹿児島において大企業といえば、自治体である。自治体が、雇用の場の圧倒的多数を占めている。町の職員は新市に引き継がれるということで安心だが、単に引き継ぐのではなく集約可能な業務はできるだけ整理していただきたい。町の広いエリアを利用したよりよい住民サービスを期待する。
- (38) 保健・福祉などの住民に対する直接サービスが、合併によって今よりも後退することがあってはならない。そのためには、これから具体的にどう積み上げていくかが大事。例えば保健所や福祉事務所は、現状では各市町がバラバラであり、行政面での調整をどのように図っていくか、また、保健師や看護師をどのように配置していくか、具体的な詰めを十分検討してほしい。
- (39) 資料の項目の中に商業・工業が入っていない。5月のときには、盛り込まれていたのに、なぜなくなったのか。これらについても、検討をお願いする。
- (40) 5町を加えても人口は5万人しか増えず、面積は倍になると、人口密度が低くなる。人口密度が低くなると、国にものを言うときの力がなくなる気がする。現在は、市の土地が高くて企業が進出できない状況であるが、合併を機に企業も誘致し、総合的に力を伸ばしていただきたい。
- (41) まちづくり、人づくりに取り組んでいるが、5町と合併することでどういう活動ができるか考えている。このような体制づくりには、行政も骨を折っていただきたい。
- (42) 合併にあたり、水道、交通問題などは、住民が自発的に考えなくてはならない。ただにするのが福祉の道ではない。合併を機に、自立について考えなければならぬ。合併により、自立について考えるいい機会をいただいたと思っている。
- (43) 合併により地域が広がるが、これをマイナスとだけ捉えるのではなく、農業や養豚ができる環境を生かしていくことが大事である。
- (44) 合併は、新しい20年後・30年後をつくるチャンスである。広くて環境のいいまちをつくっていただきたい。
- (45) 本市の運動施設等が不足しているという意見もあるが、合併により他町の施設が利用できるのはありがたい。5町の施設の利用手続き等、簡素化されるよう検討していただきたい。
- (46) 今回の合併については、文化・スポーツ・レクリエーションの分野における施設整備の効率化や広域活用につながるという点で、プラスの意味でとらえている。現在でも、例えば鹿児島アリーナには周辺町からの利用者があり、また本市からは桜島町などの運動施設を利用する市民が多いので、このような施設の共通活用が進むことは非常にメリットがあると思う。
- (47) 平成12年5月に公的施設の規制がなされて、撤廃になるとあったが、そうっていない。赤字の公的施設に特別交付税で補填をする。こういうことをしているから、国が疲弊するのである。地域にそういうものがあるのであれば、合併を機にそういうこともどうするのか、盛り込んでいただきたい。

- (48) 市町村合併の精神に鑑みて、県都として周辺町の受け入れは望ましいことと考える。財政予測は困難ということだが、行財政改革を断行して取り組んでほしい。
- 資料1 2頁に1市5町の財政運営は健全であると示されているが、現状を反映した表現とは思えない。自主財源比率は鹿児島市でも5割を切るか切らないかであり、そういう情報を正面から出すべきである。今後税源移譲された場合、合併したために苦労するとなりがねない。そうならないように今から議論の素地をつくっておくべき。
- (49) 今回の合併論議は、財政的制約からきている部分もある。合併による効率化による経費削減は必要である。P 27に交通事業があるが、現在P P P (Public Private Partnership)、つまり効率の悪い公営事業については、民営に委託するという考え方があり、今回の合併も、このまま合併して、例えば交通局の赤字分を桜島の交通事業で補填するなどの考えを持つことは好ましくないので、この点も含めて検討すべきである。
- (50) 実態として、住民に盛り上がりが見られない。これは、住民側の問題だけでなく、合併が首長や議長同士の話し合いで進められているからである。本来なら住民が盛り上がり合併協議会の設置となるが、今回は合併協議会の設置を機に盛り上げていただきたい。懸念や不安な点をクローズアップして、調整する努力を合併協議会でしてほしい。
- (51) 合併については賛成の気持ちであるが、桜島は地場産業がとても多いようなので、その管轄がどうなるのか。合併するとなるとどういう形で設定されるか、検討していただきたい。
- (52) 鹿児島市と谷山市の合併においてもそうであったが、本市と5町にはいろいろな団体がある。合併により、それぞれの団体はそのままいくのか、一本化するのか。地域が広がると、これまで以上に難しい問題である。
- (53) 谷山と合併したのだが、観光面や建設業では谷山に拠点をもち、市内に2つの同様な団体が存在している状況もあり、まだ合併されていないという感もある。今回の合併にあたっては、そのようなことがないように、各団体においても協議会をつくり、協議する必要があると思う。行政も、このあたりのことを考えてほしい。
- (54) 市が助成している団体については、合併を機に整理する必要がある。
- (55) 観光や衛生関係の団体は、谷山にもあるものがある。合併を機にいい体制づくりができるよう願っている。
- (56) 1市5町の合併の協議も、ここまで進んでいるのだなと感じた。中核市になって、本市の団体も県の団体と同じ立場で活動しなければならなくなったが、今のところそのような活動の展開は難しい。合併がいい方向に向かい、各団体会員が増え、大きな組織で活動できることを期待している。
- (57) 5町とは、すでに一緒に活動している団体もある。合併により、よりうまく活動できるようになると思う。
- (58) 本市はタクシーの供給過剰地域であり、鹿児島市、吉田町、松元町、郡山町のエリアは鹿児島交通圏として指定されているので、他の地域のタクシー事業者は営業できないようになっている。合併に伴って桜島町と喜入町が交通圏の中に入ってくるのかどうか、運輸局とも協議していかなければならないが、そういう課題もあることを認識しておいてほしい。
- (59) 医師会で行っている夜間診療や救急医療については、現在でも市内だけでなく周辺部も含めて対応しているので、合併に伴う大きな問題はないと思う。
- (60) 市民説明会の資料は大変よく整った緻密な資料だと思うが、文化に関する観点が欠けている。5町にはそれぞれ文化団体があり、組織や活動内容もかなり異なっているが、こういう組織も何らかの形で合併の論議を始めないといけないのではないかと感じた。ただし、今のところ、各町の文化施設の状況や利用条件、伝統文化や創造活動の現状などがわからない状況であり、そういうことにも目を向けていかないと、後からバタバタして困ることになるのではないかと思う。
- 吸収合併の場合、地域の伝統や個性といったものが、大きい自治体の考え方に取り込まれがちだと思うが、行政制度は当然としても、地域の生活や文化にあたたかい目を注ぐことが、吸収合併の場合には特に大切だと考える。
- (61) 三島、十島村に関しては、合併の枠組みに入らなくて良かったと思っている。離島に実際に住んでいる人の声でないと、鹿児島市民が意見を出しても実態とかけ離れたものになってしまう。離島に人が住むということは、国の問題である。本市としては、無理をする必要はない。

- (62) 三島・十島村については、外界離島は離島振興法で国土の保全、防衛、200海里問題等、地方自治だけでなく別の観点から検討すべき市町村であると思っていたので、合併の枠組みから外れたことは、正しい方向であると考えている。

意見交換会の質疑応答等の要旨

- (Q1) 来年1月以降に合併協議会設置、2年ほどで合併までとなるが、基本事項は除いて協議事項については、十分なすり合わせが望まれるが、短い時間の中でどの程度審議されるのか。その際、どういう形で考えをまとめるのか。各種団体が、その作業部会に入るのか。合併までの流れをみると、議会への報告や住民への説明とあるが、説明会は何回程度を考えているのか。住民の意見反映が必要だと思うので、できる範囲で教えてほしい。
- (A1) 資料P30のスケジュールで1月以降に合併協議会設置、建設計画の策定、協定書の一定のものができたときに、市民説明会を開催すると申し上げた。今回、この意見交換会の前に市民説明会を市内10ヶ所で開催したが、市民に対しては同じような形で説明会をしてみたい。そして、各種団体の皆さんにも、同じように建設計画の概要や調整がどのように整ったかをお知らせし、それに対する意見をいただいてみたい。
- (Q2) 新市の建設計画に位置づけたものでないと合併特例債の対象にならないということだが、建設計画は短期間で作成することになり、難しい作業になると思う。今の段階で重点的な施策として考えているものはないのか。
- (A2) 新市の建設計画は合併協議会で作成することになるが、基本的には各市町の総合計画等を参考にして、新たな事業も含めて検討することになると思う。合併特例債については、対象事業を厳選する必要があると考えている。計画作成にあたっては、限られた期間内ではあるが、住民の意見を十分に聞いて取り組んでいきたい。
- (Q3) 市町村建設計画策定の中に、資料に記載のない産業振興等は盛り込まれるのか。
- (A3) 資料のP8に市町村建設計画に盛り込む内容を記載しているが、この計画には新市の建設の基本方針等を盛り込んでいくことになる。もちろん、新市の産業振興という観点からも計画作成を行っていく。
- (Q4) 諸々の課題を一番軋轢のない形で調整するためには、サービスは高いほうに合わせ、負担は低いほうに合わせるというやり方になると思うが、どのように考えているか。
- (A4) 資料8頁に示しているように、本市の独自施策が合併によって後退することは基本的にないと考えているが、5町の独自施策については、それを全市に広げるとすれば財政負担や公平性の観点からの検討が必要になると思う。資料15頁に示しているように、各市町で制度が異なる施策については、本市の制度を基本として、新市の財政状況等を考慮しながら持続可能な制度とする方向で検討し、法定合併協議会で協議することになると考える。
- (Q5) 説明された事項でいうと、福祉や環境施策で大きな違いがみられる。編入合併なので原則として本市の制度にならうという説明であったと思うが、本市の市民の負担が増えるのではないかと。
- (A5) 制度で調整が必要なものについては、基本的には本市の制度に合わせることにしているが、5町の独自制度については、制度がはじまった経緯、財政問題を考えながら持続可能な制度としなければならない。6市町で十分協議してみたい。
- (Q6) 1市5町の意識調査で、本市は必要であるとする意見が4割弱であるが、他町はそれよりも高い比率である。この違いをどう受け止めているか。
- (A6) 他都市の例を申し上げますと、新潟市と黒埼町が合併したが、それぞれのアンケートでは新潟市は必要であるとする意識が低く、黒埼町は高かったと出ている。鹿児島地区の合併は編入合併であると4月のアンケートをした時点では決まっていなかったが、自治体の規模などから編入合併だと受け止めて、市民にとって合併によりどう変わるかイメージできずに、このような結果になったのではないかと考えている。

- (Q 7) 1市5町の枠組みが今後動くことはないのか。喜入町では指宿地区に入るか鹿児島地区に入るかという問題もあったようだが。
- (A 7) 喜入町は指宿地区と鹿児島地区と2つの合併研究会に入っていたが、住民意識調査を2回行い、2回目の調査結果で鹿児島地区との合併希望が62.3%であったことから、町長として議会とも相談して鹿児島地区への参加を決定された。
- (Q 8) 政令市になるためには人口が何万人になればいいのか。
- (A 8) 政令指定都市の要件は法律上は50万人以上とされているが、実際は80万人以上が目安になっている。ただし、静岡市と清水市が合併することになったので、合併による場合は70万人以上でよいことになり、新静岡市は政令指定都市になる予定。

意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 国の施策の押し付けも感じるが、市のメリット、地方のメリットのよいところを生かさざるを得ないのではないか。
- (2) 今回の合併は周辺町が鹿児島市に吸収される形になるが、5町の住民が合併してよかったと感じられるよう、各町の歴史や住民の意識を大切にしながら進めてほしい。
- (3) 立場上、賛成、不賛成はあると思うが、住民にとって住民全体の幸せを考えて、検討・調整するようお願いしたい。
- (4) 大きなものの対策も必要であるが、もっと住民に直接かわりがある安全で満足のいく構想をお願いする。
- (5) 知恵を合わせて、市民が理解できる合併にしてほしい。最終的には行革になるということで納得はした。
- (6) いろいろと細かい施策を関係部局にも調査させて、大鹿児島市として、100年、500年の計を立てるべきだと思う。
- (7) 合併後の将来像をイメージできるようにしてほしい。
- (8) 合併により市域が広がると会議等に出席するための移動範囲が大きくなり、出席者の負担が大きくなるのではないかと心配である。
- (9) 広域になることで、各市町の各組織の活動の違いが表面化すると思われる。将来的に一体化を目指すのか、大まかな目標をつくり、指導してほしい。
- (10) 今後、各団体・組織の合併の具体的な進め方について、それぞれの団体で主体的な取り組みを始めるとともに、行政サイドの適正な指導をお願いしたい。
- (11) 他県に比べて、現在でも一極集中化が激しいが、合併により今以上にそれが進むと思う。全県的にみると、いろんな市町村が切磋琢磨することが発展につながると思う。そういう意味では、合併は問題である。
- (12) 資料の「どうして合併を考えるの」については、もう少し具体的に、ある程度数量化して示せたら理解が深まるのではないかと。要は、住民サービスが低下しないことが理解できる説明が肝心である。
- (13) 行財政改革の視点からも市町村合併には積極的に取り組むべきであり、行政の基本的な役割をしっかりとらえて、優先順位をつけて評価しながら施策を進めてほしい。また、前例や従来の延長線で考えるのではなく、社会経済環境の変化を踏まえて、この際中長期的観点に立って、大改革を前提とした行政サービスの検討を行ってほしい。
そのような取り組みにあたっては、人材をフルに活用し、場合によっては職員の増加を考えてもよいと思う。
- (14) 合併論議はこれからが本番であり、いいこともわるいことも含めて、住民に十分な情報を提供すべきである。また、合併は前向きに考えるべき課題であり、単なる市町村の組み合わせではなく、戦後50年にわたる地方行政の歪みを見直す機会としてとらえるべきだと思う。
鹿児島市と5町の場合は、通勤・通学などの面で一体感が強く、周辺のかなりの住民が合併を望んでいるので、本市も協力すべきである。

- (15) 合併にあたっては、行政事業の民間へのアウトソーシング、PFIの検討、既存インフラの有効活用などをはじめ、徹底的な行財政改革の断行による歳出の削減、事業運営の効率化を図りつつ、行政サービスの向上を目指すべきである。
- また、行政機構の合併だけでなく、各種団体や公的組織の合併も促進されるよう、何らかのインセンティブを考慮し、地域が一体化して総合力を発揮できるような体制整備を行う必要がある。
- (16) 合併のメリットは強調されるが、デメリットについても明確にして意見交換をした方が、論議が深まると思う。
- 市町村合併は、財政面だけに目が向き、行政サービスが低下するということがあってはならない。1市5町のそれぞれの制度の長所を十分取り入れて、高いレベルで協議がまとまるようお願いしたい。
- (17) 閑古鳥が鳴いている運動施設や文化施設が多く、箱物行政の無駄が多いと感じる。合併のメリットを生かすために、こういうことに十分気配りをしてほしい。
- (18) 合併の期限があるせいか、既成事実として合併推進の方向で流れている感じを強く持った。市町村合併の是非はわからないが、行政制度の問題ばかりでなく、地域づくり、まちづくり、文化行政の面からも検討がなされるべきだと思う。大変な問題なので、じっくりと進める必要があると思う。
- (19) 行政主導による合併は、市民の意識に馴染まないと思う。合併特例債は借金であるという説明があったが、市民にとっては特例債も補助金も交付金も全て税金であり、税金の用途として各種の財政支援措置がある。したがって、歳入確保という観点からの、行政的な考え方だけに基づく合併の動きには不満を感じる。